



運送業界でのSDGsは次のページで詳しく

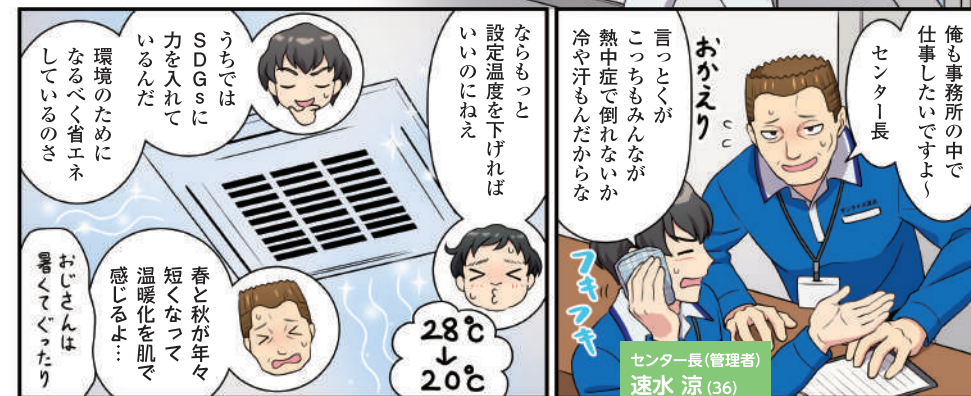
今日も一日安全に!トラックドライバー日誌2

現場を知るドライバーから、管理者へと歩を進めた速水。リーダーとして仲間の先頭に立つ綾瀬ドライバー。管理者やドライバーに求められる取り組みを、それぞれの視点から紹介していきます。

第5話 SDGsは、プロの「身だしなみ」

ドライバー
山川 司(54)

ドライバー
細木 剛(41)



SDGsは、プロの「身だしなみ」

SDGsを「求人・イメージアップ」戦略のひとつに

SDGsへの取り組みは社会からの評価を高め、若年層の求人にも直結します。SNSなどで「環境と人への優しさ」を積極的に発信し、これからの時代に「選ばれる運送会社」を目指しましょう。



発信力で、若手から「いいね!」と言われる会社へ!

マンガ制作:トレンド・プロ



まずは「いいね!」の気持ちから

世の中の常識や目標がSDGsへと向かうなかで、私たち運送業界の社内ルールも、時代に合わせて進化しています。例えば経営の理念や方針でも、社会や地域・環境に向けた「貢献や還元」「調和や循環」など、SDGsにも通じる文言を多く目にします。

企業への評価制度は、業界内のGマークやISOがあります。小学校の授業で学ぶほど広く社会から認知・評価されているのは、SDGs活動への取り組みです。社会から会社や社員が取り残されないために、「これってSDGs?」や「これってSDGs?」でも良いので、まずは知ることと認めることから始めましょう。

長距離運行の負担を軽減するためにフリーを利用することは、SDGsにおける環境負荷の削減とエネルギー資源の確保としても評価されます。また、具体的な目標として定められた169のターゲットには、「世界の道路交通事故による死者数を半減にする」ことも含まれています。これを踏まえ、社内での事故防止活動をSDGsの二環として展開し、さらにSNSなどで発信することでPRにつなげることも可能です。

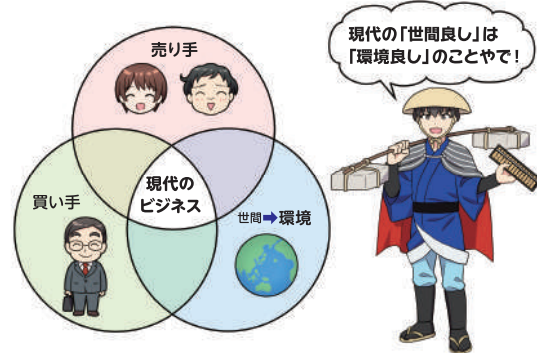


日々の事故防止活動がSDGsに

温暖化など人類が直面する数多くの課題への対応として、2015年に「誰も置き去りにしない」ことを目標に国連が打ち出したのがSDGsです。2030年をゴールとして、17項目のあるべき姿が策定されました。

現代ビジネスの基本「新・三方良し」

近江商人の「世間良し」は、現代では「環境良し」へと進化しました。無駄なアクセルを控えるエコドライブの実践は、会社(売り手)やお客さま(買い手)だけでなく、地球環境にも貢献する大切なビジネスの条件です。



プロの「走り方」が、現代の「三方良し」の決め手!



環境も安全も、「三方良し」のエコドライブ

商売上手な近江商人の三方良しとは、「売り手良し・買い手良し・世間良し」ですが、現代では「売り手良し・買い手良し・環境良し」であり、環境に不適合なビジネスは成立しない時代になっています。

運送業界における環境(エコ)活動の代表例が、「CO2減らす運転・事故も減る」でおなじみのエコドライブです。また、環境負荷を抑えるためには、過積載運行の防止も欠かせません。過積載は道路運送車両法などの違反であり、環境への悪影響にとどまらず、重大事故に直結する反社会的な行為として厳しく位置付けられています。

燃料価格の高止まりが続く昨今では、経済(エコノミー)活動としても燃費の数値が注目されています。特に夏場の燃費向上のためには、炎天下の車内で待機する際に無理してアイドリングをストップする停まり方よりも、日頃の走り方を変えましょう。走行中は、無駄なアクセルや急ブレーキを控えることで、エコドライブと安全運転につながります。さらに、周囲にブレーキを踏ませない配慮は、交通事故に遭わない防衛運転にも貢献するのでお勧めです。

「エコロジー×エコノミー×セーフティドライブ」から始まるSDGs

管理者・トラックドライバー、双方の視点から必要な心構えや事故防止ノウハウを紹介していきます。



高柳 勝二 (たかなぎ かつじ)

株式会社 プロデキューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデキューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い「据案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。